

公共のメリットを打ち出せない
企業買収劇は応援に値しない

ライブドアのニッポン放送株買収が世間を沸かせた。その少し前、西武鉄道株の有価証券報告書の虚偽記載と、その事実が発覚する前のインサイダー取引による証券取引法違反で、西武グループの中核企業であるコクドの会長・堤義明氏が逮捕された。捜査中、西武鉄道の前社長の自殺まで起こってしまった。西武グループは、滋賀県出身の堤康次郎氏が一代で築き上げた。それゆえに、「グループは堤一族のもの」という思いが強く、事実、堤一族がグループ全体を支配してきた。自分が築いた会社やグループに対する思い入れが強いのはわかる。しかし、零細～中小企業ならいざ知らず、上場企業は公器。社会に貢献し、社会に応援されるような公共性の強い企業でなければ、今後の存続や発展はないと筆者は考える。ライブドアにしてもニッポン放送にしても、泥沼の買収劇の決着後、いかに社会に還元するかを説明して頂かないと、どちらも応援する気になれない。ちなみに下のイラストの答え。株式の語源は江戸時代の「株仲間」に由来するが、実はこれも一部の人々の利権を守る制度ということを書き加えておく。

一番新しい日本の一ページ

いまだどきの歴史

いよいよ淘汰

熾烈を極めるデジカメ販売競争
ついに京セラが撤退の意向を表明

名機 CONTAX 645



これで撮りたいと今も思う
フォトグラファー多数

京都に本社を置く京セラは、デジカメ事業から撤退する方針を固めた。夏頃に現行機種を生産終了し、年内には販売も終了する。デジカメ市場は販売競争が激しく、値崩れが著しい。京セラのカメラなどの光学機器事業は赤字を抱えていたが、国内主要メーカーでデジカメ撤退を決定したのは京セラが初めて。今後は成長が見込めるカメラ付き携帯電話向けの電子部品事業に注力するそうだ。また、フィルム用カメラも国内での生産・販売中止が検討されている。京セラのカメラブランドであるコンタックスのフィルム用カメラは、これまで本誌の撮影にも使用されてきたし、今も愛用しているフォトグラファーもいる。10年間のメーカーサポートはあるものの、今後、他社のカメラをメインに使っていくことを決めた人もいいる。誌面を彩ってきた写真を撮影したカメラが近い将来なくなるのは、少し寂しい。それに京都パープルサンガのマンオブザマッチの商品もコンタックスのデジカメ。撤退後はどんな商品になるのかなあ。

なに？株！
いかにもこの切り株はワシのものじゃが？



株式の「株」の語源..?

愛知万博

自然との共生を語る愛知万博は
大阪万博世代に何を語るのか？

去る3月25日、愛知万博が開幕した。地球・自然・人類の未来を感じさせるパビリオンや催しがあり、話題も多い。しかし、筆者の世代にとって「万博」と言えば、やっぱり「大阪万国博覧会」。当時は現在のように人々の趣味嗜好が多様化していなかったからかもしれないが、大阪万博はまさに国民行事だった。日本国民の多くが新幹線「ひかり号」に乗り、こぞって万博に足を運んだ。そして太陽の塔や月の石に驚愕し、来るべき未来へと思いを馳せたものだ。しかし、愛知万博は大阪万博ほど人々の記憶に長くとどまるだろうか？大阪万博を体験した筆者の世代が子供の頃描いていた未来って、こんなだったか？少なくとも西暦2000年を過ぎた頃にはとくにリニアモーターカーが走っていて、車もホバークラフトみたいに浮いたはずでは？愛知万博の成功は心から祈っているが、やっぱり未来に夢を持ってなくなった世代には、冷凍マンモスさえインパクトに欠けるんだよなあ…。

バイオテクノロジーで
再生されたものの方が…？



凍った肉..?



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/~tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>